

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社ゴーイング
施設名	白坪・ひまわり保育園
報告者（役職）	岡本 貴子（園長）
住所・連絡先	熊本市西区田崎1丁目5-115
	☎ (096)240-6938
	E-mail going_nt1@yahoo.co.jp

○タイトル（保育計画）

子どもたちが色々な遊びを通して大きく成長できる保育環境づくり

○主な助成備品

大型ブロック、マット、すべり台、パズル、ままごとセット

1. 保育計画策定の目的

熊本地震後、解体や周辺環境の悪化に伴い、小さい子どもたちにとっては、外へ出ること自体が危険になりました。そのため、外での活動が大幅に制限され、室内での活動が多くなり、子どもたちが楽しく遊べる環境づくりを考えたときに、今のままでは遊びの種類も満足度も不足するという思いが強くなりました。そこで、室内でも楽しく過ごせるような遊具や玩具が必要と考えました。小さい子どもたちにとって、十分に満足して遊べることはとても大切なことであり、それを実現するためには玩具の量も必要だと思い、ままごとセットなどは子どもたち一人一人が十分に使用できる量を購入しました。

動と静のバランスを考えた遊具、玩具により、遊びの幅も大幅に広がることを期待しつつ取り組みました。

2. 具体的な実施内容

・大型ブロック、マット

運動遊びをする時に活用しました。ブロックの上を歩いたり、その上に登ってジャンプをしたり、マットの上でゴロゴロと転がったりと様々な動きを行うことで、室内の中でも十分に体を動かす遊びを展開することができました。同じブロックを使用しても子どもたちの遊び方は様々でした。また、体をしっかりと動かすことにより、子どもたちも外で遊ぶ時と同様に楽しむことができていたように感じました。



高いところから低いところへ。



傾斜があるところを上り下り



ゆりかごのように楽しんでいます。



ハイハイしながら橋渡りを楽しんでいます

・すべり台

主に0歳児の子どもたちが使うことが多く、階段を登ったり、すべったりと室内においても活動的に遊ぶことができ、身体の発達にも役立っていました。1,2歳児は大型ブロックと組み合わせてあそぶことで、連続した動きをすることが出来、更に発展したあそびを楽しむことができました。



- ・ままごとセット

最初、ザクッと切れる感覚あそびを楽しむ子どもたちが多く、次々と包丁で食べ物を切り、その感覚を楽しむ様子が見られました。その遊びから、ご飯を作って食べるという遊びへと発展していきました。2歳児においては、ごっこ遊びへと変化し、子どもたち同士の遊びへと発展していきました。その中で、おもちゃの貸し借りなど、ほかの面での成長にも役立ってくれました。保育士は、子どもたちの創造性などが発揮できるようなかかわりを心がけるようにしました。

- ・パズルセット

つまみのあるパズルは、0歳児の子どもたちも遊ぶことができ、子どもたちの「つまむ」という成長を促していました。また、1, 2歳児の子どもたちがパズルで遊ぶときは机上で行うため、集中して遊ぶ力や達成感を養う目的で使用していきました。

3. その成果と評価

動きの成長を促す大型ブロック、すべり台、マットなどは、室内で思い切り体を動かして遊ぶ活動を行うときに活用しました。子どもたちは、体を動かすことが大好きなので、楽しそうな表情を見せながらあそんでいました。その中で、年齢に応じた体の発達を促す(バランス感覚、跳ぶ、ジャンプするなど)様子が回数を重ねるごとに感じることができました。また、体の発達だけでなく、順番があり、順番を待つことなど運動以外の点でも成長を感じる瞬間がありました。

静の遊びに通じるパズルやままごとセットでは、量の確保により子どもたちが落ち着いてあそびに集中することができているように感じました。遊びの中で友達との貸し借りなども自然とできるようになりつつあります。特にままごとセットに関しては、年齢ごとに遊び方が変化し、一人のあそびから、友達とのあそびになることで、精神的な成長も感じることができ、上のクラスの子どもが下のクラスの子どもに料理を作ってあげるなど、あそびの中で思いやりや、やさしさなどの育ちを感じています。貸し借りをする中で、「貸して」「どうぞ」「ありがとう」など言葉でのやりとりも次第に見られるようになり、その部分でも、子どもの成長を感じています。

今回助成していただいたすべての遊具・玩具に関して、子どもたちが遊びの中で成長していくという大きな目的に大いに役割を果たしていると思います。

4. 今後の課題と展望

これからも、助成していただいた遊具、玩具を使用して、子どもたちの成長に役立てていこうと思います。本園は、小規模保育園のために最長で3年までしか過ごすことができません。実際にあそびを通して成長に使うことができるのは、実質2年ということになります。そこで、子どもたちがあそびを通して成長できるように年齢に応じた使い方や取り組みを意識し、働きかけたいと思っています。物を通しての子どもの成長とは・・・様々なことを考えながら、活用していきたいと思っています。

以上